

2022年10月13日

苫小牧市長 岩倉博文様

立憲民主党苫小牧支部
代表 沖田清志

苫小牧市議会民主クラブ
代表 松尾省勝

2023年度予算編成に対する要望書

2019年2月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、12月で3年を向えようとしております。感染者数は、7回の波の中現在でも多くの感染者が報告されており、私たちが普段の生活を取り戻すには程遠い状況となっていると同時に、市内における経済活動についても、物価高の影響による燃料費や原材料価格の高騰などが企業の経営を圧迫しています。

さらに先行きの見えない現状では、消費の手控え等、景気の落ち込みやこれに伴う企業収益の更なる悪化、ひいては、個人所得の減少が懸念されています。このように社会経済情勢が流動化する中で、基礎自治体の果たす役割は重要性を増しています。そして、市民の市政に対する期待感はますます大きくなり、今後の自治体運営には将来社会を見据え、市民の声をいかに反映できるかが求められているところです。また、持続可能なまちづくりに向けてSDGsなどの取組をさらに推し進めていく必要があります。

市民協働を掲げ5期目のスタートを切られた岩倉博文市長におかれましては、将来を見据えた一層の適正な行財政運営が求められています。私たち「立憲民主党苫小牧支部」及び「苫小牧市議会民主クラブ」では、「必要な政策を実現する」「皆さんの声を市政に反映する」「公平な市政を実現する」という理念のもと、市民の期待に応えるべく活動する中で、このたび市民生活の向上に資すると考える事項を「2023年度苫小牧市予算編成に対する要望書」として、別紙のとおり取りまとめましたので提出いたします。

今後、より厳しい財政状況が見込まれる本市であります。特段のご高配を賜りますよう、ここに強く要望いたします。

2023年度苫小牧市予算編成に対する要望書

1 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 医療体制の維持について

- ① 苫小牧市立病院を中心とした医療体制の維持と充実のため、十分な予算措置を継続すること。
- ② 医療従事者に対する勤務体制等に配慮するための予算を確保すること。

(2) 中小企業に対する経済支援について

- ① 国・道の支援の他、市独自の支援についても実施すること。
- ② 「ゼロゼロ融資」については、長期化する経済疲弊の対策を行う上で「減免及び免除」についての市民調査を行い、全道市長会を通じ国へ要望すること。

(3) 低所得者を中心とした経済支援について

- ① 国・道の支援の他、市独自の支援を検討すること。

2 物価高騰対策

(1) 中小企業に対する経済支援について

- ① 国・道の支援の他、市独自の支援を検討すること。

(2) 市民の生活支援について

- ① 原油や食料の高騰に伴う実質所得低下を緩和するため、中低所得者層を中心とする所得税減税や生活困窮者を対象とする市独自の支援を検討すること。

3 駅周辺の活性化対策

(1) 旧サンプラザビルの解体について

- ① 旧サンプラザビルについては、公費解体を含めて早期に実施すること。

(2) 駅周辺の再開発について

- ① 旧サンプラザビル跡地には、公共施設と複合化した施設を建設するとともに、JR、バス、タクシーなどの拠点を集約した公共交通ターミナルも建設すること。
- ② 苫小牧駅周辺を景観形成地区として、条例を制定すること。

4 防災対策

(1) 津波対策について

- ① 北海道津波浸水想定区域による被害想定を踏まえ、市が早急に対策を講じることができるよう、財政的支援を拡大すること。

(2) 大雨対策について

- ① 河川改修、河川清掃などについて、十分な予算措置を講じること。
- ② 雨水管整備を推進すること。

(3) 防災訓練と防災教育について

- ① 自主防災組織の組織率向上のための更なる施策の充実を図ること。
- ② 自主防災組織の中心的な役割を担い、長期にわたって活動に従事できる人材育成のための施策を講じること。

5 ゼロカーボンに向けた取組

(1) 目標設定について

- ① 市として2030年度までの年代別目標を設定し、そのための予算措置を講じること。

(2) 具体的取組について

- ① 庁舎駐車場をはじめ、公共施設に車両充電器を設置すること。
- ② 一般住宅に対する補助金を拡充すること。

(3) 企業連携について

- ① 企業に対する補助金の拡充と充実のため予算措置を講じること。

6 自然環境の保全

(1) 環境保全の具体的取組について

- ① 自然環境保全地区である樽前ガロー、トキサタマップ湿原、勇払川旧古川、ウトナイ沼南東部砂丘、沼ノ端拓勇樹林については、その特色に合わせた保全を図ること。
- ② 生物多様性の観点から動植物の保護を図るとともに、市民の生命財産を守るために野生動物対策を推進すること。

7 少子高齢化対策

(1) 子育て世代への支援について

- ① 子育て事業に係る料金全般に多子軽減措置を設けることで、市として多子世帯を支援する財政措置を講じること。

(2) 特別保育事業の充実について

- ① 延長保育事業、障がい児保育事業、地域子育て支援事業、病児保育事業、一時預り事業、休日保育事業などの特別事業については、保育士や施設の負担が年々多くなっていることから、人的配置や処遇などで安定した運営ができるよう網羅的な財政措置を講じること。

(3) 給食費無償化に向けた取り組みについて

- ① 学校教育での基礎的経費である学校給食費については、保護者への教育費負担軽減のため、公費負担（無償化）を念頭に置いた財政措置を講じること。

8 地域包括ケアシステムの実現強化

(1) 包括的な支援サービスの提供について

- ① 法改正・制度改正などに伴い市町村が行う福祉サービスの裁量が大きくなる今後において、2025年の地域包括ケアシステム構築に向け、現状（人口、高齢化、医療提供機関、財政）における問題点等を調査し地域ケア会議を充実させ、高齢者が地域において安心して過ごせる更なる仕組みづくりに取り組むこと。

9 教育施策

(1) 不登校問題について

- ① 不登校が長期にならないよう、担任や学年主任を筆頭に更なる「復学出来る環境づくり」を構築すること。また、特に中学生の場合は内申点に影響することから「出席日数」への対応も併せて検討すること。

(2) 中学校の部活動について

- ① 市内中学校の部活動を活性化させるため、スポーツ・レクリエーション活動の芽を育てること。

10 市職員の体制と働きやすい環境整備

(1) 新型コロナ対策を含めた体制づくりについて

- ① 新型コロナウイルス感染症は、いまだに終息が見えず、その対応のための職員配置が継続して必要なことから、適正配置のための予算措置を講じること。

(2) 職場環境の整備について

- ① 職員の執務室において、一部事務スペースが狭隘化し、勤務に支障をきたしていることから、全体的な見直しを行い、そのための予算措置を講じること。

11 平和の取組

(1) 平和教育について

- ① 市内小中学校に対する平和教育実施のための予算措置を講じること。

(2) 苫小牧市非核平和都市条例の充実について

- ① 中学生の広島派遣事業の拡充などに向け、予算措置を講じること。

1 2 L G B T Q施策の展開について

- (1) 全ての人権問題について、教育、啓発の充実に取り組むとともに、パートナーシップ条例制定による、L G B T Q性的マイノリティへの具体的な支援を講じること。
- (2) 本市の様々な施策に関して、同性カップルは市営住宅に住めないなど不利益を生じさせないため、性的少数者への対応について改善すること。
- (3) 性的マイノリティの専門相談窓口を設置し、幅広い悩み等に対応するとともに、専門職や他の窓口へ繋げる等の助言や指導を行うこと。

1 3 公共交通のあり方について

- (1) 低炭素社会や超高齢社会の到来、現状課題の更なる調査を継続して行い、今後の社会情勢の変化に対応した望ましい公共交通のあり方を検討すること。

1 4 住民が参加できる市政について

- (1) 住民投票の条例化や、審議会・協議会等への公募市民の参加を更に促し、協働を推進すること。